

愛知県震度観測・調査報告書―第35報―の概要

1 調査の概要と目的

この調査は、地震動の伝わり方や地域特性を明らかにするため、県内全市町村に設置している計測震度計による震度情報ネットワークの震度観測データ等を活用して、平成27年1月～12月に発生した地震と震度に関する情報をまとめるもので、防災対策の基礎資料、県民の地震に対する理解を深めるために活用されることを目的として報告書を作成している。昭和56年より1冊／年で発行しており、本書で35冊目となる。トピックスとして、「長周期地震動」及び「ゆっくり地震」についての解説を掲載した。

2 愛知県震度観測・調査報告書―第35報―の概要

(1) トピックス

ア 長周期地震動

平成27年12月に内閣府が「南海トラフ沿いの巨大地震による長周期地震動に関する報告」を公表したことを踏まえ、長周期地震動についての解説を行い、これに対する日頃の備えや、長周期地震動に関する知識を持つことの必要性について述べている。

イ ゆっくり地震

近年、観測・研究が著しく発展している、プレート境界で発生するゆっくりとした断層のずれについて解説し、今後の展望等について述べている。

(2) 震度観測資料

ア 愛知県における地震

平成27年に、県内のいずれかの市町村で震度1以上が観測された地震の発生は22回であり、震度4以上が観測された地震の発生はなかった。

イ 国内の主要な地震

平成27年に、国内で、被害を伴った地震の発生は6回であった。

ウ 世界の地震

平成27年に、世界で人的被害を伴った地震の発生は28回であり、死者20名以上の地震の発生は3回あった。

3 調査研究成果の活用

調査報告書は、防災会議に報告するとともに、防災関係機関、市町村に配付し、地震防災対策の基礎資料として活用する。

また、県民が自由に閲覧できるように公立図書館、県民相談・情報センター等に配付し、地震についての理解を深めてもらう。